

県外派遣審判員報告書（九州中学校バスケットボール競技大会）

報告者：山口健人

○スケジュール

期日： 令和元年 8 月 4 日（日）～8 月 6 日（火）

詳細：8 月 4 日（日）17：00～ 審判会議 @那覇市民体育館会議室

8 月 5 日（月）9：30～ 大会 1 日目 @那覇市民体育館，豊見城市民体育館

8 月 6 日（火）9：30～ 大会 2 日目 @那覇市民体育館

○審判会議での確認事項（九州ブロック長 福岡先生より）

鹿児島 IH で実際にあったケースを中心とした確認と監督，代表者会議での伝達事項等の確認。

また，鹿児島 IH のテーマである「処置ミス 0」を今大会でも引き続きテーマとして取り組むことの連絡があった。下記確認事項詳細。

- ・サインをした人がコーチであること
- ・タイムアウトの請求について，余裕をもって請求するように連絡済みであるがテーブルオフィシャルズとの連携が必要であること。ブザーが遅かった際には，クルーの 1 人が TO へコーチのタイムアウトの請求が正しくされたか確認を，残りの 2 人で確認が取れるまでプレイヤーをベンチに戻らせないようにしクルーで協力して対応すること
- ・TO への確認はボールデッドの際にコーチが確認に来ることで連絡済み。
- ・3 or 2 クルーで割れた場合には TO の得点表示上は 2 点のカウントをすること。4 Q 残り 2 分まではボールがデッドの際にクルーで確認を。4 Q 残り 2 分以下はすぐに止めて確認を。

- ・ユニフォームの番号間違いの際→スコアシートの訂正，そのままゲームを進める。
- ・ソックスの色の違い→競技より連絡。そのままゲームを進める。
- ・インテグリティ案件に該当する場合は必ず対応すること。ただし，事前のコーチへの声掛けなど未然に防げるのが望ましい。TF，UF，DQについては会場審判主任に必ず連絡を。
- ・delivery 力：今後評価の観点として必須となる。全体に示す力，伝える力。TO とのコミュニケーション，コーチとのコミュニケーションなど

○実技

【1 日目】

A1 玉城（沖縄 1 位）vs 尚学館（宮崎 2 位）

CC：松永雄平（長崎県）U1：宮崎洸丞（佐賀県）U2：山口健人（鹿児島県）

〔クルーミーティング〕

サイズのあるインサイドプレーヤーに対しての守り方を整理できなかった印象。またリバウンドに関してアクションがどちらなのか，先にポジションを占めていたのはどちらなのかという点，またサイズのあるプレイヤーのリバウンドポジションの取り方に関しても笛を入れるべきものがいくつかあったように感じた。また，ダブルチームを組まれていたり，OF が負けポジションにいたりする中でも，DF が悪いところから手を出して絡むケースなどはシンプルにコールする必要があったように思う。また，個人の反省としてベンチのノイズに関して反応してしまい，プライマリーの判定をカバーしてもらったことがあった。

B5 小ヶ倉（長崎2位）vs 西山（熊本2位）

CC：比嘉涼太（沖縄県）U1：石嶺壮一郎（沖縄県）U2：山口健人（鹿児島県）

[クルーミーティング]

PGCでは前試合を実際に見ることはできていなかったがスコアシートを見ながら、得点源のプレイヤーについて確認し、ベーシックなメカニクスとプライマリーの意識についてしっかりと確認しゲームに臨んだ。両チーム、エースのマッチアップに関してフラストレーションを溜めないようクルーで共通理解をもってゲームを進めることができた。このゲームで気になった現象として自分がTポジションでCサイドのプライマリーで白の選手がボールコントロールしている際、青の選手の手がかかって白がボールを失ったケースがあった。ゲーム中はプライマリーのレフェリーが見ているという認識でノーコールだったが、ビデオで見ると選手が交錯して、Cのレフェリーからは確認できない部分だったと感じ、セカンダリーでコールすべきであったと感じた。

【2日目】

B4 西山（熊本2位）vs 鹿南（熊本1位）

CC：森田将史（長崎県）U1：岡井元毅（佐賀県）U2：山口健人（鹿児島県）

[クルーミーティング]

クルーで前のゲームを一緒に見ることができたため、キープレイヤーに関して共通理解をもって

ゲームに臨むことができた。また CC 森田さんがゲームの前から両コーチとコミュニケーションをとってくださり、ベンチとのコミュニケーションという面でもとても勉強になった。ゲームの中では選手が疲労の中のコンタクトでストレスを溜めたりする部分に関して、クルーで共通理解を図り、いきすぎたものに関してはワーニングを入れるなどクルーの協力の中でゲームを進められたと思う。その中で青の選手が必要以上にコンタクトをしたりする部分に関して後半からは意識をして笛を入れることができたが、前半でテンポセットという点からもその選手のイリーガルな接触に関して笛を入れることが必要だったと反省が出た。

○全体を通しての感想

2 日目の男子の全中代表決定戦を含め、2 日で3 試合を担当させていただきとてもいい経験をさせていただきました。全中出場のかかったゲームで緊迫したゲームを担当する中でもクルーの協力という面で常にアイコンタクトを取り、タイムアウトやインターバルの中で情報共有をしながらゲームを進めることができました。今大会ではこれまで以上にプライマリーの意識を高めることができたこと、またプライマリーのレフェリーが何らかの状況で鳴らない際にセカンダリーから判定をしなければならないシーンもあり、そういった状況の際に積極的に判定に加わらないといけない部分で課題も見つけることができました。

最後に温かく迎えてくださいました開催県である沖縄県バスケットボール協会の皆様、派遣において多くのご配慮をいただきました原田審判長をはじめ鹿児島県協会の皆様に感謝申し上げます。